

## 第二回 ブラジル長期派遣中間報告書

武田 翔吾

ブラジルでの留学生活も4ヶ月が過ぎて、様々な経験をした。この報告書は、この期間に自分が目標に対して行った行動、また日系人の方々との関わりの中で感じたこと、最後にこれからの抱負という形にしたい。

まずは目標に対する行動であるが、自分は①熱帯農業技術の習得②専門分野の知識の拡大③ポルトガル語の習得の三つの目標を立てた。この4ヶ月でこれらの目標に対してとった最も大きい行動は、10/25からPacesという学生団体に所属したことである。この学生団体は熱帯の環境と作物に関しての持続可能な仕組みを発展させ、社会に普及させることを目的とした学生団体だ。僅か10人のメンバーであるが、2haほどの土地を管理、運営している。栽培品目はジャガイモ、トウモロコシ、大豆、コーヒーなど。畑での作業は基本的に毎日あり、その他毎週火曜日夜の会議、木曜夜のプレゼンテーション、また不定期で行われるテストが主な活動内容だ。僕はこの学生団体に夏休みまでの約2ヶ月間所属し、可能な限り多くの時間を費やした。その結果大豆、トウモロコシの植え付けと初期生育期の管理に関わることができ、ブラジルにおけるそれらの作物の基本的な農法を学ぶことができた。また、Paces以外の活動では寮や授業関係の友人を通じて果樹と園芸に関する施設を見せてもらい、挿し木、接ぎ木や種子消毒に関してその技術を学ぶ機会を得た。さらに、授業に関しては復習を重点的に行うことでポルトガル語の理解に努め、全教科合格することができた。3教科の平均評定は10段階中8.0であった。

これらの活動の結果感じたことは、ブラジルの農業を理解したり熱帯農業の技術を習得したりするには長い時間が必要であり、とても一年間の留学期間でどうにかなるようなものではないということだ。少なくとも数年間、勉強と実践的活動を続けなければ熱帯の自然を理解し農法を身につけることはできない。これは薄々気づいていたことではあるが、この目標には少々無理があったらしい。しかし技術そのものを身につけることは難しくても、ブラジル農業を形作る様々な技術、知識、農業機械や設備、それらを活かす組織や社会的流通の仕組みを全体的に学ぶことによってブラジルの農業の概要を掴むことはできそうである。そしてブラジルの農業の特徴や構成要素、成功要因を理解することは日本や世界の農業を考えていく上でとても有意義なものであると感じている。今後はそのような方向で、様々な農業の現場に赴き、広い知識を身につけることを行動の指針としたい。反対に、反省点として最も大きいのはポルトガル語の学習の時間が不十分であったことである。授業のテスト対策などに時間を取られ、10月半ばから単語やリスニングの練習を怠っていた。ポルトガル語の理解が不十分であれば学習効率は大きく落ちるし、また友人たちとのコミュニケーションも円滑に行うことができない。また別の反省点として、僕は一時寮や学生団体の友人たちとコミュニケーションをとることを怠り距離ができてしまったことがあった。異文化を吸収することを面倒だと感じた。しかし実際には楽しく興味深い

ことの方が多くに後になって気づいた。これからの夏休みは授業がなく、様々な農家さんのお宅にお世話になる予定である。ポルトガル語の基礎的学習にもう一度力を入れるとともに、新しい環境に身をなじませる力を鍛えていきたい。

次に、日系人のことである。今まで農大会館で先輩方とお会いしたり、友人の関係で日系人の農家さんにお世話になったりした。そのような方々との交流を通じて、日本人とは何かということや、自分の中の日本人のアイデンティティについてよく考えるようになった。特に一世から三世といった年配のお方々と接すると、彼らがたとえ日本語が話せなかったとしても強い日本人としての個性を彼らの中に感じる。ブラジルに集団的に移住が行われたのは明治の日露戦争後と、昭和の太平洋戦争後。彼らはその当時の明治や昭和の時代人としての感覚を色濃く保存しており、彼らの方が本国よりも純粋な日本人なのではないかと思うことがある。日本人はおとなしく礼儀正しい民族だとされ、それは今も昔も変わらないだろう。しかし伝統的な日本人の心の底には、凜として強く確立された自己がある。ブラジルで、静かなあるいは強かな誇りを持つ方々と話すと、彼らの経験や苦勞が伝わってくるようであり、自分も日本人としてこのように深い精神の持ち主になりたいものだと思う。ブラジルでは、個々人に個性が強く求められる。日本の組織の全体主義的な雰囲気から脱するブラジル留学は、そういった強い自己を獲得するのに適した時間だろう。日系人の方々から学ぶことは、とても多い。今後も日本人や自分自身に関して考え続けるとともに、移民に関して勉強したい。特にブラジル移住のパイオニアである明治の移民たちに関して勉強し、レポートのようなものをまとめられれば良いと考えている。

最後にまとめと今後の抱負を書く。前回の報告書からのこの3ヶ月は、ブラジルの地に自分をなじませ、目標のために多くの時間を使った時期であったように思う。ブラジル人とのコミュニケーションにおいて文化や考え方の違いで苦勞した点もあったが、留學生活において居心地の良いコミュニティーと自分の成長を期待できる組織に身を置けたのは喜ばしいことだと感じる。今後は、自分にとって価値があると感じたものを取り入れるだけでなく、他人にどうやって価値を提供するかということを考えていきたい。特に、自分を受け入れてくれた寮や学生団体、研究室の人々に対して何が出来るかを考えたい。また、留學生活には終わりがある。来年には僕は就活を控えており、再来年は大学を出ることになる。ブラジル生活で学んだことを自分の中で完結させるのではなく、周りの人々や日本社会に還元していく、そのようなことを考える留學生活にしたい。